

令和元年度

社会福祉法人名寄市社会福祉協議会

事業報告

現在、各市町村では、公的な福祉サービスと協働して誰もが助け合いながら暮らすことのできる地域共生社会の実現をめざした包括的な支援体制の整備が進められ、地域共生社会における社協の役割の明確化と、社協の有する福祉のネットワークを基盤にした福祉関係者の参加と協働活動の充実・強化が不可欠であり、また各地で発生する大規模災害の発生に備えた体制づくりについても関係機関と検討していく必要があります。

このような背景のもと、令和元年度は、引き続き第4期地域福祉実践計画「つながり」を基軸とし、従前より実施している町内会ネットワーク事業での身近な地域をつながりや、多分野・多世代地域活動拠点協議体事業での分野、世代を超えた福祉のまちづくり、生活困窮者自立支援事業、成年後見センター運営事業を中心とする地域における相談機関の中核を担うことのできる相談支援センターの強化や介護保険事業や市受託事業での在宅福祉サービスを基に、地域で暮らす高齢者や障がい者の方々が住み慣れた地域で自立した生活を安心して送れるよう利用者に必要とされるより質の高いサービスの提供の充実強化、また、併せて地域福祉の中核を担うことのできる役職員の資質向上及び事務局体制の強化に努めて参りました。しかしその一方で、名寄社協指定居宅介護支援所に関する一連の問題で、市民の皆様にも多大なる不安とご迷惑をおかけした年となりました。

以下、令和元年度事業計画に掲げた重点推進項目ごとに報告をいたします。

【重点推進項目】

1 身近な地域をつながり、支え合いづくり

町内会ネットワーク事業では町内会単位で地域の実情に応じた様々な活動を展開いただき、更には今年度から開始した「ふくし出前講座」では町内会ネットワーク活動をはじめ、福祉関係団体など様々な方に活用いただき、住民相互の支え合いの拡大につながりました。

また、名寄市立大学との事業の共同開催や専門知識を活かした地域福祉活動を展開することにより、多様な市民の地域活動への参加につながりました。

2 世代・分野を超えた福祉のまちづくり

多分野・多世代地域活動拠点「ここほっと」は開設から3年目を迎え、子どもから高者まで幅広い層の市民に毎日足を運んでいただき、年齢や障がい等に関わらない日常的か

つ多様な交流を生む場として定着してきました。

また、ふれあい広場やふれあい家族交流会ミニバリアフリーおもちゃ博、市民ポッチャ交流大会についても、年齢や障がいに関わらない多様な市民に参加いただき、地域福祉活動や交流の拡大につながりました。

生活相談支援センターや成年後見センターにおいては、あらゆる理由によって生活に困窮した市民への支援や権利擁護を、関係機関との連携によって進めてまいりました。

3 地域に根ざした福祉サービスの展開

住みなれた地域で自立した生活を安心して送れるよう、指定居宅介護支援事業所及び訪問介護事業所（なよろヘルパーセンターぬくもり）の機能強化に努めるとともに、訪問介護事業所では「特定事業所加算」の取得を継続し、利用者から信頼の得られる質の高い介護サービスの提供、利用者確保に努めました。

また、介護支援専門員及びホームヘルパーの人材確保や育成、地域との連携会議、研修会への積極的な参加、自主的な研修会の企画・実施にも積極的に取り組みました。

4 地域福祉事業の更なる推進・強化を担える社協組織の確立

「第4期地域福祉実践計画つながり」の評価機関である専門部会及び理事、評議員を対象に評価についてテーマとした研修会を開催し、改めて評価方法等について知識を深めたうえで事業の進捗状況及び適正な評価を実施し、理事会・評議員会において報告・意見交換を行い次年度事業計画への反映に取り組みました。

事務局組織の強化及び役職員の資質向上としては、積極的な研修機会の提供や災害等緊急時にもより多くの住民の生活を守ることのできる社協体制整備のため平成31年1月に運用を開始した全職員に対する「社協職員行動マニュアル」をより具体化した災害発生時の事業継続計画や災害ボランティアセンター設置マニュアルについて令和2年度より追加運用ができるよう取り組みました。